

明るく安全なまちに！

▼防犯灯・街路灯の整備▲

議員 事故や犯罪を防止するため、防犯灯や街路灯が増設されているが、高齢者などの安全確保には、まだまだ必要な箇所が多い。そこで、今後の整備推進について尋ねる。

市長 市民の意見を聴く中で、夜間の照明確保は市民ニーズが強いと感じた。そのため、厳しい財政事情の中、今年度予算に拡充策を盛り込んだ。

具体的には、今後三年間の緊急対策として、防犯灯は、①地域設置分の補助額を現在の二分の一から三分の二に拡充し、新規設置数を二割増加すること、②市設置分の予算を二割増額することなどを掲げている。

また、街路灯は、過去二年間の年間平均設置数より二割程度多い約五百灯分の予算を計上した。今後、地域と連携しながら、明るく安全なまちづくりを推進したい。

民間活力導入の

メリットと課題

議員 今年度予算の特徴として、リスク管理やサー

ビス向上に向けた民間ノウハウの一層の活用が掲げられているが、これまでの取組では必ずしもうまくいかなかった例もあった。

そこで、民間活力を導入することのメリットと課題を尋ねる。

局長 メリットとしては、民間事業者のノウハウにより、きめ細やかな市民サービスが期待できる点がある。例えば、指定管理者を導入した施設では、開館時間の延長や、イベントなどの実施により、市民の利用促進が図られている。

さらに、人件費などのコスト削減や、事業を運営する際のリスクを民間事業者と分けあうことで、市のリスクを軽減することが可能となる。

一方、課題としては、複数の民間事業者から応募がないと競争によるメリットが働かないことや、民間事業者に運営上の裁量を広く認めないと、自由な発想や新たな提案による効果が望めないことなどがあがる。

このような点は、今後検討する必要があるが、民間活力の積極的な活用は、市の経営にとって極めて重要な要素になると考えている。

レジ袋のさらなる削減を！

議員 昨年十二月から、レジ袋使用量の削減に向け、ポイントシール方式のカンパスシール事業が開始された。参加店舗数やレジ袋お断り率など、現在の状況や今後の取組について尋ねる。

局長 カンパスシール事業は、環境局長 市民・事業者・行政で構成した委員会にて検討した結果、

多くの事業者が参加でき、市民にとっても利便性や経済的メリットがあることから採用した。

現在の参加店舗数は二百七十店舗である。今後はコンビニエンスストアなどにも働きかけて、参加店舗を増やしていきたい。

また、市民のレジ袋お断り率は、事業開始直後の約九パーセントから、本年四月には約十四パーセントと着実に上昇している。さらに、来年度末には二十パーセントを目標に取り組みしたい。

今後も、事業のPRを積極的にを行い、成果や課題を確かめながら事業を充実させたい。



カンパスシール

市民を感染症から守る！

▼予防接種について▲

議員 今年になって、関東をはじめ福岡県内でも、若年者にはしらが流行した。はし

かや風疹、結核などの感染症を予防するため、市はどのような対策を講じているのか。

市長 現在、感染症対策として、①予防接種の実施などの推進、②市民への感染症に関する情報提供、③感染症患者への適切な医療の提供などに取り組んでいる。

特に、予防接種の実施を、感染症対策の重要な柱に位置づけており、今年度は、約八億九千五百万円の予算を計上した。

今回のはしらの流行を重く受け止め、今後も、感染症をはじめとした健康被害の発生予防や拡大防止に努め、市民の健康と安全な暮らしを守っていきたい。

公共交通の充実はいまちづくりの原点

議員 全国の大都市は、公共交通の充実が、人口の定着や企業・大学の誘致と結びつき発展している。

本市においても、利便性や定時性、経済性に優れた公共交通体系づくりに向けた計画を作成する必要があるのではないかと。

市長 全国的に公共交通離れが進み、採算性の悪化とそれに伴う便の減少や廃止により、さらに利用者が減るといふ負の循環が生じている。

本市でも、少子高齢化が進行する中、高齢者をはじめ交通弱者の足を確保していくためには、この負の循環を断ち切る必要がある。

また、これまでの、マイカーに過度に依存した交通体系から、環境に配慮した公共交通体系へ転換しなければならぬ。

そこで、このための計画作成に向けて、本年八月に、学識経験者や市民代表、交通事業者などで構成する策定委員会を設置する。

予定としては、来年夏を目途に、本市における理想的な交通体系のあり方や、具体的な施策を盛り込んだ「仮称」環境首都総合交通戦略」として取りまとめた。

菜の花で環境学習を

議員 本市は、美しき世界の環境首都の実現を目指した施策に、「菜の花プロジェクト」を掲げている。このプロジェクトでは、専門農家でなく、市民が菜の花を栽培する仕組みを作るべきではないか。

市長 「菜の花プロジェクト」は、菜の花を植えることで、まちが綺麗になるだけではなく、菜の花から油が採れ、その油が自動車などの燃料にもなるというものである。

これは、地球温暖化対策の一環であり、環境にやさしいということと、市民が環境について学習する非常によい機会だと思っている。今後は、このプロジェクトが、子どもからお年寄りまで楽しんで参加できるよう、議員や市民から幅広く意見を聴きながら取り組んでいきたい。